

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「いのちの友に、いのちと共に」

口会議・プログラム等予定

(2025 年 10 月 25 日以降・前回未掲載分)

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「私はもはや、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。私はあなたがたを友と呼んだ。互いに愛し合いなさい。これが私の命令である。」(ヨハネ:15:15ab, 17)

10月のはじめ、横浜教区社会委員会のご準備で人権セミナーが行なわれました。その案内文の中で、以下のように記して下さっています。『私たち聖公会は、祈りと礼拝、聖書の朗読と聖餐を中心に、信仰と生活を結びつけながら歩む共同体です。その歩みの中で、信仰は決して個人の内面だけにとどまらず、私たちが生きるこの世界において具体的に形をとるべきものであると教えられています。とりわけ「最も小さい者」に目を向けること、すなわち社会の中で声を上げることができずに苦しんでいる人々の存在に心を寄せることは、聖書全体、そして主イエスの教えの中心的な主題の一つです。「あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわちわたしにしたのである。」(マタイ25:40) この御言葉に照らすとき、私たちが人権や社会の構造的な不正に向き合うことは、単なる政治的関心や社会活動ではなく、むしろ福音に応える信仰の具体的な表れにほかなりません。』

具体的なプログラムとしては、映画「SAYAMA」の鑑賞、NPO法人アルペなんみんセンターへの訪問、京都事件についての現状報告などが行なわれました。詳しくは来月号の事務所だよりで報告していただきますが、心に残った言葉をいくつかご紹介したいと思います。ひとつは、「難民の友に、難民と共に」というアルペなんみんセンターのモットーです。イエスさまは私たちを友と呼ばれ、互いに愛し合いなさいと命じられました。イエスさまの教えに従い、誰とともに歩もうとするのかです。難民申請中に母国がなくなり、無国籍状態となって25年を日本で過ごしている方のお話もお伺いし、自由が制限されていることが一番つらいことだと語られました。難民申請を申し出て仮放免中の方々は、就労がゆるさされていないがゆえに自力で生活ができず、今夜泊まる場所がない方もおられま

10月

- 19日(日) 青年委員会〔Web〕
- 29日(水) 金融資金運用・管理チーム会議〔管区事務所〕
- 30日(木) ナザレ委員会〔管区事務所〕
- 30日(木) 収益事業委員会〔Web〕

11月

- 4日(火) いのちをみつめる祈りの集い〔Web〕
- 6日(木) 人権問題担当者会〔Web〕
- 7日(金) 教役者遺児教育・建築金融資金運営委員会〔管区事務所〕
- 10日(月) 年金委員会〔管区事務所+Web〕
- 10日(月) 日韓協働委員会〔Web〕
- 12日(水) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 13日(木) 財政主査会〔管区事務所+Web〕
- 13日(木) 神学教理委員会〔管区事務所〕
- 14日(金) セーフチャーチ・タスクチーム会議〔管区事務所〕
- 17日(月) 主事会議〔管区事務所〕
- 18日(火) ハラスメント防止・対策担当者会議〔Web〕
- 21日(金) 青山墓地清掃・墓参の祈り〔青山墓地〕
- 27日(木) 女性に対する暴力を根絶するために祈る礼拝〔聖アンデレ教会・東京〕
- 27日(木) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔聖アンデレ教会ホール〕
- 28日(金) 財政主査会〔ナザレの家〕
- 28日(金) ~ 29日(土) 各教区財政担当者連絡協議会〔ナザレの家〕

※ 11月21日(金) は青山墓地清掃および墓参の祈りの為、管区事務所は休業いたします。緊急の連絡は総主事まで。よろしくお願いいたします。

※ 管区事務所年末年始休業

12月29日(月) ~ 2026年1月5日(月) まで、管区事務所は冬期休業となります。緊急の連絡は総主事まで。

(次頁へ続く)

す。私たちに当たり前に与えられている自由・人権が奪われてしまっている方々がおられることを改めて認識しました。無実の罪で逮捕され、見えない手錠をかけ続けられ、自由を奪われ続けた石川一雄さんは今年3月に逝去され、お連れ合いが第4次再審請求を起こされています。性暴力とその後の二次加害を起こした京都事件を私たち一人ひとりの課題、日本聖公会全体の課題として認識していくことの重要性について話し合いました。なかなか思い至ることのできない課題も多くありますが、現場を訪問し、話を聞き、体験することの大切さを改めて思われました。

誰もが安心して集える居場所として、地域の課題や弱い立場に置かれた方々に寄り添う教会として、私たちの教会の底力が試されているように思います。神さまの被造物である人と自然のいのちを大切にす私たちの祈りと働きが導かれ、整えられますように。

(前頁より)

12 月

- 3 日 (水) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔沖縄教区センター + Web〕
- 3 日 (水) ～ 4 日 (木) 各教区人権担当教会〔長崎聖三一教会〕
- 4 日 (木) 常議員会〔管区事務所〕
- 5 日 (金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔Web〕
- 20 日 (土) 原発のない世界を求める Zoom カフェ〔Web〕

<関係諸団体会議・他>

- 11 月 3 日 (月) ～ 9 日 (日) USPG 人身売買などに関する国際会議〔インド〕

☆ 12 月 25 日 (木) は降誕日のため、管区事務所の業務を休業いたします。緊急の連絡は総主事まで。



□主事会議

第 68 (定期) 総会期第 5 回 2025 年 10 月 2 日 (木)

<主な報告・協議>

1. 海外出張について、日韓協働合同会議 (10/20 ～ 10/22、23、24 韓国 / 大田) への柴本孝夫主教 (九州)、卓志雄司祭 (東京)、上原成和司祭 (沖縄)、松山健作司祭 (京都)、呉光現 (大阪)、黒澤圭子 (東京)、吉谷かおる (北海道)、篠田茜 (大阪) の出張を承認した。
2. 2025 年度教役者給与支援について、財政主査会の提案の通り 2 教区への支援を承認し、2027 年・2028 年度の支援金を上限 500 万円として継続することを常議員会に諮ることとした。
3. 一般会計資金勘定の見直しについて承認し、常議員会に提案することとした。
4. 管区事務所職員に関する規程見直しについて、報告を受け意見交換を行なった。管区職員給与については、各教区教区職員の給与なども含め各教区財政担当者にも意見をうかがってはどうかなど、丁寧な対応が求め

られるとの意見があり、常議員会の意見を伺うこととした。規程については概ね承認の上、常議員会に諮ることとした。

次回会議: 2025 年 11 月 17 日 (月)

□各教区

北海道

- ・第 85 (定期) 教区会 2025 年 11 月 21 日 (金) 15 時～ 22 日 (土) 15 時 主教座聖堂 札幌キリスト教会

東北

- ・第 110 (定期) 教区会 2025 年 11 月 23 日 (日) 18 時～ 24 日 (月) 17 時 主教座聖堂 仙台基督教会礼拝堂・ビンステッド主教記念ホール

北関東

- ・第 93 回 (定期) 教区会 2025 年 11 月 24 日 (月・休) 10 時半～ 17 時 志木聖母教会

東京

- ・第 147 (定期) 教区会 2025 年 11 月 22 日 (土) 9 時～ 17 時 聖アンデレ主教座聖堂・聖アンデレホール

横浜

- ・ 第 87(定期) 教区会 2025 年 11 月 23 日(日)
18 時～24 日(月・祝) 16 時 横浜聖アンデレ
主教座聖堂および会館

京都

- ・ 第 124(定期) 教区会 2025 年 12 月 6 日(土)
9 時～17 時 主教座聖堂・平安女学院 室町
校舎

大阪

- ・ 第 137(定期) 教区会 2025 年 11 月 24 日(月・
休)9 時～17 時 主教座聖堂 川口基督教会

神戸

- ・ 第 96(定期) 教区会 2025 年 11 月 24 日(月/
祝) 9 時～17 時 主教座聖堂 神戸聖ミカエ
ル大聖堂

沖縄

- ・ 第 75(定期) 教区会 2025 年 11 月 24 日(月)
8 時半～16 時 沖縄教区センター

□神学校**聖公会神学院**

- ・ 2025 年度 諸聖徒日および聖公会神学院創
立記念感謝礼拝 2025 年 10 月 31 日(金) 13
時半～15 時 場所:聖公会神学院諸聖徒礼
拝堂 司式:校長 主教 ルカ 武藤謙一
説教:主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏
幸(東京教区)

□関係諸団体**日本聖公会婦人会**

- ・ 第 28(定期) 総会において、次期会長選出
教区に大阪教区が選出され、大阪、京都、
中部の 6 名で役員会を務める。2025 年 9 月
10 日(水) 新役員任命式開催 新会長:加
納佳世子(大阪)、日本聖公会婦人会 新事
務局:大阪教区事務所内(書記:中部教区
会計:京都教区)

《人事》**京都**

司祭 セシリア大岡左代子 2025 年 9 月 30 日付 主教補佐に任命する。

神戸

司祭 マルコ藤井尚人 2025 年 10 月 1 日付 病気療養のため休養延長を許可する。
(期間 2025 年 10 月 31 日まで)
尚、休養期間中 療養のため赴任地を離れる
場合がある事を認める。

📖 管区・出版物案内**・『2026 年度 教会暦・日課表』**

2025 年 10 月 1 日発行 頒価 300 円(税込)

お求めはバイブルハウス東京 ☎03-3203-4137
またはお近くのキリスト教書店にお願いいたします。

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2025 年 10 月 15 日

日本聖公会各教区
信徒・教役者の皆さま
関係するすべての皆さま

日本聖公会 首座主教 ダビデ 上原榮正
日本聖公会主教会

主の平和がありますように

去る 2025 年 2 月 28 日付、前京都教区主教高地敬主教は 2024 年 11 月 23 日開催の京都教区第 121 (定期) 教区会主教演説で、「京都事件」の責任を取り辞職の意向である旨が述べられ、その後主教会の承認を得て辞職しました。また古賀久幸司祭も定年退職を待たずに京都事件の責任により同日辞職しました。

いわゆる「京都事件」とは、日本聖公会京都教区で起きた聖職者による子どもへの性虐待事件 (一次被害) と、その性虐待事件に対する京都教区の被害にあわれた方々への二次加害を含めた出来事の総称と捉えています。

主教会は、2006 年 3 月 16 日付で日本聖公会各教会教役者ならびに同神学校校長宛書簡を発して、「主教会はこの事態を重く受け止め、被害にあわれた方々のご家族の尊厳が回復され、一日も早く心の傷が癒やされますようお願い、京都教区の聖職団と共にまことの悔い改めに至ることができるよう神の導きを求める」表明を出しました。

しかし主教会は、その後においてこの出来事を一教区の問題とだけとらえ、日本聖公会が性暴力にどのように向き合うべきかという視点が欠如していたと言わざるを得ません。それではまことに不十分でした。また、主教会への報告は当該教区主教からという一方的なものであり、その報告を通して判断してきたという限界を持っていました。

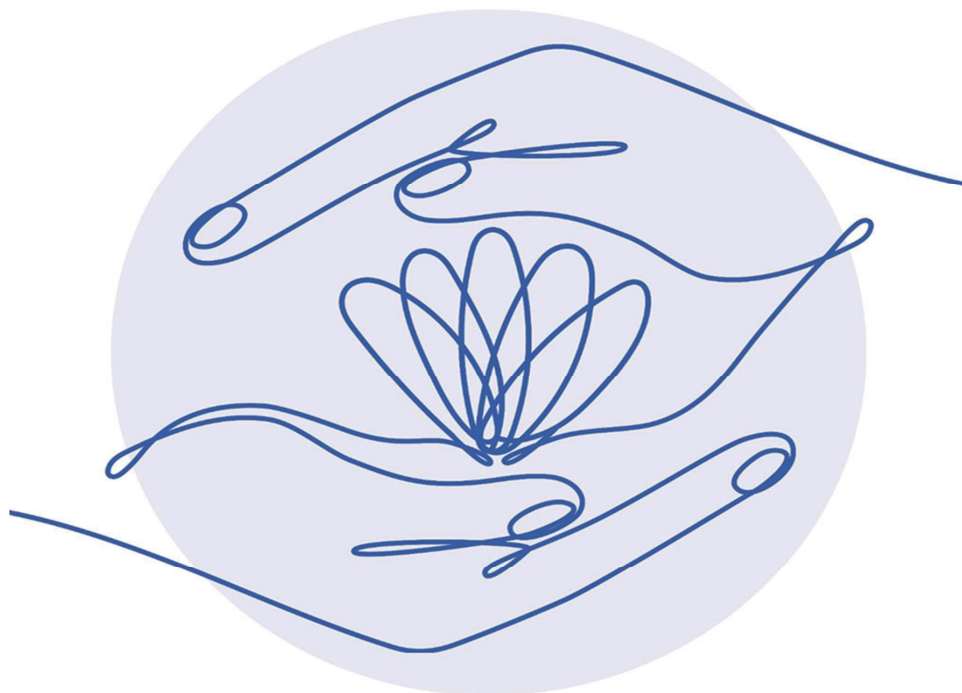
この誤りから私たち管区、教区、教会は学ばなければなりません。被害にあわれた方々の声を真摯に聴き、寄り添い、あくまでも被害にあわれた方々の尊厳第一であること、二次加害が起きること、組織としてのガバナンスが弱く、第三者による助言を求める等。私たちは改めて、より安全な教会を築くというセーフチャーチを実現させなくてはなりません。主教会としても、これまでの主教会のあり方を振りかえり、今後も日本聖公会全体の課題として受け止めてまいります。

私たちの病を負い、重荷を担われ、すべての人の希望である愛の神、主イエス・キリストが私たちを導いてくださいますようにお祈りいたします。神様が被害にあわれた方々に癒やしといたわりを豊かにお与えくださいますように、心からお祈り申し上げます。

以 上

「セーフチャーチ 始め方ガイド」 あります。

わたしたちの教会がだれにとっても安心な場であるために
セーフチャーチへの取り組みについて考えてみませんか？



日本聖公会では 2026 年に開催される日本聖公会（定期）総会に、
「日本聖公会セーフチャーチ・ガイドライン」を提案します。

セーフチャーチ
始め方ガイド
<https://x.gd/pv6bp>



ガイドライン
（ワーキンググループ版）
<https://x.gd/NVKDr>



ガイドライン
（直訳版）
<https://x.gd/nTiMZ>



アングリカン・コミュニオン
セーフチャーチ委員会
<https://x.gd/ejsjL>



ANGLICAN COMMUNION
SAFE CHURCH COMMISSION



Nippon
Sei Ko Kai



特集 ジェンダープロジェクト



Mothers' Union in Korea 1925-2025

「大韓聖公会全国オモニ連合会（マザーズ・ユニオン）」

創立 100 周年記念式典に参加して」 ～ 韓国・ソウル 9/18-21 ～

女性に関する課題の担当者 北海道教区 クララ 吉谷かおる

去る9月20日(土)に大韓聖公会ソウル主教座聖堂において、大韓聖公会全国オモニ連合会(マザーズ・ユニオン)創立100周年記念式典が執り行なわれ、日本聖公会より4名がその祝典に参加してまいりました。この式典が9月に予定されていることを聞き、かねてより大韓聖公会の女性たちとの交流を望んでいた女性デスクとジェンダープロジェクトメンバーは、ぜひこの機会にお祝いに駆けつけたいと願い出ました。本来は日本聖公会婦人会と、日本聖公会GFSの代表者の出席が想定されていたかと思いますが、ご都合がつかず、日本聖公会婦人会会長代理として古澤恵依子さん(ジェンダープロジェクトメンバー)と、女性デスクとして吉谷かおるの2名がご招待いただけることになりました。さらに、ジェンダープロジェクトから、金子登美江さんと下条知加子執事も出席させていただくことになりました。

この訪問にあたっては、卓志雄宣教主事から大韓聖公会教務院の崔俊基^{チェ ジュンギ}司祭にたびたび連絡をとっていただき、韓日両管区のみなさまにたいへんお世話になりました。また、現在中部教区からソウル教区に出向中の金善姫司祭が、事前に訪問先などのアレンジをしてくださり、滞在中は通訳としてアテンドしてくださいましたので、たいへん心強く、実り多い時間を過ごすことができました。おかげさまで、わたしたちは9月20日15時よりの「感謝聖餐式」と「100年史発行祝賀会」に賓客としてお迎えいただいたばかりか、その前後にもあたたかいおもてなしをいただいて、翌21日に無事に帰ってまいりました。古澤恵依

子さんと下条知加子執事も、このたびの記念行事と交流について、それぞれの経験を振り返ってくださっていますので、わたしからは短く報告し、次のステップに目を向けたいと思います。

わたしたち一行4名は、9月18日のうちにソウルに入り、19日にはまず「女性宣教センター」を訪問しました。その時には、昨年9月にジンバブエで開催された「セーフチャーチ委員会会議」に一緒に参加した、前センター事務局長のハン^{ハン ジュヒ}ナ韓周希司祭も同行してくださいました。このセンターは女性たちの長年にわたる祈りと献金によって2016年に建てられたものです。その開所式の時には、女性デスクとして木川田道子さん(当時)とわたし吉谷「サラのチャペル」でのお祝いの席に加えていただき、羨ましく思ったものでした。高台に建つ見晴らしのよい素敵な建物で、宿泊もでき、リトリートや研修、ミーティング^{チェ キョンジャ}などに活用されています。ここでは崔敬子さんとハンナ司祭から、センターの運営と性暴力防止に関する取り組みなどについてお話をうかがうことができました。



女性宣教センターのサラのチャペルで

その日の午後には、黄色い蝶(ナビ)のモチーフが印象的な「戦争と女性の人権博物館」を見学しました。9月6日に大阪教区城南キリスト教会でドキュメンタリー映画『金福童』^{キム ボクドン}の上映会がジェンダープロジェクトの主催で開催され、日本軍「慰安婦」として被害を公表、日本に謝罪を求めてきた金福童さんの生涯に触れたばかりでしたので、被害を受けた女性たちの声や体温が近くに感じられるように思いました。ここでは、2017年に大韓聖公会・日本聖公会の主教会と神学校に対して連名で要望書を送ったこともある閔淑姫司祭^{ミン スッキ}が待っていてくださり、久しぶりにお会いすることができました。

その夜には夕食会にお招きいただき、オモニ会のヤン・ヨンスン会長はじめ役員の方々、ソウル・釜山・大田の三教区の主教とお連れ合い、ミャンマー・アジア地域マザーズ・ユニオン代表のジョイさんと親睦の時を持つことができました。記念式典の前日、当日はオモニ会のみなさまも聖職のみなさまも、一番お忙しい時であったにもにもかかわらず、可能な限り時間を割いてわたしたちと共に過ごしてくださいました。「100年史」の編集者であり、100年史発行祝賀会の司会も務められた金ハンナさんとは、ACC-18アクラ(ガーナ)でお会いしており、来年はACC-19北アイルランドのベルファストでお会いしましょうと再会を約束しました。

女性デスクは2006年に設置された当初から、文化的に背景が似ている韓国との交流を重視しており、東アジア女性ネットワーク会議の構想も持っていました。これまで、記念行事にはゲストとしてお招きするなど、連携に努めてきましたが、コロナ禍をはさんで交流が限定的になり、大韓聖公会の機構や担当者、現在の活動についての情報が得にくくなっていました。「セーフチャーチ」「ジェンダー正義基本方針」「女性の司祭按手周年行事」「女性に対する暴力の根絶」「神学教育への要望」など共有したい課題はたくさんあります。今回も、何人もの方と再会したり新たに知り合ったりすることができましたが、今後は

日韓の合同会議にも参加して、より多くの方と知り合い、密に連絡を取り合って、学びや協働の機会を増やしていきたいと願っています。

「戦争と女性の人権博物館」を見学して

正義と平和委員会ジェンダープロジェクト
東京教区 執事 セシリア 下条知加子

大韓聖公会全国オモニ連合会(マザーズ・ユニオン)創立100周年記念式典出席のため訪韓した私たち4人は、ソウルに着いた翌日の午後、金善姫司祭の案内で「戦争と女性の人権博物館」を見学しました。

住宅街にある、個人の家を改装して造られたというその館は、一般的な博物館とは大分様子が違っていました。入口は真っ黒な扉。「本当にここから入って良いのかな?」と思いつつ中に入ると、博物館の方が出迎えてくださいました。入場料を払ってチケットを受け取ると、その裏には一人の方の写真と簡単な紹介が載せられていました。

この日チケットに載っていたのは朴永心さん^{パク ヨンシム}という方でした。年配の女性のスタッフがその方について簡潔なお話を聞かせてくださり、見学開始となりました。チケットに紹介される方は日によって違うそうで、館内の地下展示室にはその日チケットで縁を結んだ被害者の方と映像で出会えるようになっていました。暗く狭い空間で彼女の生涯に接し、一人の人間としての人生が浮かび上がってきます。「慰安婦」という形で暴力を受けた大勢の人たちというのではなく、一人ひとりに名前があり、生きざまがあり、尊厳ある一人の人のかけがえのない人生があったのだと、改めて思い知らされました。

観覧時にはイヤフォンガイドが貸出されますが、展示を順に回りながら数字が付されたポイ

ント毎にスイッチを押すと、日本語で解説を聞くことができます。ベトナム展示館では、ベトナム戦争下で韓国人から性暴力被害を受けた被害者の紹介もされていました。館全体が大変よく考えて造られ、展示がされていて、世界の紛争・戦争の中で苦しんできた若い女性たちの心の叫びが、苦しいほどに伝わって来ました。



博物館外壁の黄色い蝶のメッセージ

世界各地で物議を醸している「少女像」も置かれていました。彼女の向かいのスクリーンには日本軍「慰安婦」問題の解決を求めて駐韓日本大使館前で続けられている水曜デモの様子が映し出されていました。ガイドのアナウンスに誘われて少女像の隣の空いた椅子に座って手に触れた時、その冷たさと硬さは性暴力被害に遭い続けている少女たちの、閉じ込められた苦しみそのものであるように感じられました。もし私の娘だったら、孫だったら…と思うと、居てもたつてもいられない気持ちになりました。戦時性暴力は過去のことでなく、今も続いているのだという認識を新たにしました。

オモニ会の100年の歩みは、日本の朝鮮半島植民地支配（韓国併合）、戦時中の強制労働（徴用工）、そして「慰安婦」という、まさに戦争によって人権——ことに女性の人権が——蔑ろにされる、苦難の時代の中にあったと言えるでしょう。この度の訪韓を通して、日韓の歴史を学び直す必要を改めて感じさせられました。

オモニ会 100 周年記念式典に 出席して

正義と平和委員会ジェンダープロジェクト
大阪教区 ルシヤ 古澤恵依子

9月20日（土）に行なわれた大韓聖公会の全国オモニ連合会（マザーズ・ユニオン／以下、オモニ会）100周年記念式典に参加してきました。

今回のスケジュールはオモニ会100周年記念式典への参加を中心として、金善姫司祭のプロデュースのもと、大韓聖公会の女性宣教センター、戦争と女性の人権博物館などを訪問し、関係者の方々のお話を聞くことができました。

記念式典の前日、全国のオモニ会の役員の方たちと主教たちとの夕食会にお招きいただきました。役員の方々をご紹介いただき、特に、記念誌である「100年史」をまとめあげたことは大きな功績だったようで、その働きをなさった方々をご紹介いただきました。

翌日、100周年記念式典は、感謝聖餐式に加え、100年史発行祝賀会という形でした。朴東信首座主教の説教の中で、「男性中心の教会構造の中でも、教会を実際に支え、祈り、動かしてきたのは、オモニ（母）たちの変わらぬ愛と献身によるものであったこと、それが今日の大韓聖公会を形作ったことを私たちは皆、よく知っています。」そして、オモニ会はこの100年、日本統治、戦後の廃墟のなか、独裁の圧政の中でも、祈りと奉仕によって教会を守ってきたことなどを語り、マザーズ・ユニオンの創設者であるメアリー・サマー夫人のビジョンである「子どもたちに良い模範を示すこと」「家庭の中心に祈りを置くこと」がこの100年実践され、今日の大韓聖公会につながっており、100年前にオモニたちがまいた信仰の種がこれから豊かに実を結ぶでしょうと締めくくられました。

聖餐式に続いて100年史発行祝賀会が始ま

り、オモニ会の歩みをまとめた映像を観ました。その後、功労者の表彰があり、歴代の会長、「100年史」の編集者、資料提供者などが表彰を受けました。

今回この記念式典に参加して、大韓聖公会の中で、オモニ会がとても大事にされ、宣教の重要な存在とされていることを感じました。そして、日本聖公会の婦人会と同じく、オモニ会も新たなメンバーの確保が難しくなっていると感じていただきました。韓国社会の中で女性の生き方が多様化している影響だそうです。

私は、オモニ会の方々と食事をしたり、女性センターを訪ねたり、金善姫先生から女性司祭を何人か紹介していただいて、もっと深く話して

みたかったな、もっとこの人たちと繋がりがかったな、話し合い、課題を共有したい!と感じました。そして、ゆくゆくは若い世代と共に考え、分かち合えたらと思いました。



式典の行なわれた大聖堂にて
(三教区の主教とオモニ会会長と一緒に)

女性に対する暴力の根絶を 求めて祈る

日時 2025 年 11 月 27 日(木) 11 時～

場所 東京教区聖アンデレ主教座聖堂

港区芝公園 3-6-18 東京メトロ日比谷線「神谷町」出口 1(東京タワー方面)

司式 主教 高橋宏幸(東京教区)

司祭 卓 志雄(東京教区)

司祭 大岡左代子(京都教区)

説教 主教 小林 聡(大阪教区)

礼拝後の分かち合い「セーフチャーチ ―安全で
安心できる教会であるために」
お話 西原美香子(管区ハラスメント防止・対策担当)

※当日聖アンデレ主教座聖堂にお越しいただける方は、
どうぞ礼拝にご参加ください。

「東京教区聖アンデレ主教座聖堂ホームページ」QR コード⇒
こちらから地図、アクセスをご確認ください。
なおこの礼拝は同ホームページより後日配信いたします。



世界の「ジェンダー暴力と闘う16日間キャンペーン」に連帯し、11月25日(女性に対する暴力撤廃の国際デー)から12月10日(世界人権デー)までの期間が始まるこの日に、女性と少女へのあらゆる形態の暴力が根絶されることを願って、礼拝を執り行います。どうぞ当日対面の礼拝で、また後日の配信を通じて、お祈りの時をともにしてくださいませよう、お願いいたします。

日本聖公会 女性に関する課題の担当者
正義と平和委員会・ジェンダープロジェクト
東京教区聖アンデレ主教座聖堂

〈問い合わせ先〉03-3431-2822

ウエハースボランティアの活動から

－ 祈りと沈黙 －

9 月 27 日 ナザレの家

ウエハースボランティア活動 責任者
東京教区 クララ 海宝良子

ナザレ修道院は2023年に閉院しました。修女様や職員のお働きによって作られたウエハースは長年にわたり、多くの教会の聖餐式に供されてきました。閉院の年、この働きを続けてこられた同会職員の方から、ウエハースの作り方を教えていただく機会が与えられました。

この尊い働きを守っていくため、管区に引き継がれた「ナザレの家」(元ナザレ修道院)で、ウエハース作りが再開されました。現在15名のボランティアがローテーションを組んで週に3～4回ほどウエハースを焼いています。ボランティアには、東京教区の聖マーガレット教会や立川聖パトリック教会、横浜教区の聖アンデレ教会、山手聖公会、松戸聖パウロ教会の信徒の他に、東京在住の北海道教区や中部教区の方もいらっしやいます。

祈りをささげて、ウエハース作りが始まります。まず溶いた小麦粉液を司祭用と会衆用の異なる専用機械で平らなシートに焼きます。このシートを一週間ほど静置後、加湿して手で一枚ずつ型抜きし、その後一週間ほど乾燥させてから箱詰めしています。司祭用ウエハースは一箱に20枚、会衆用ウエハースは50枚ずつ小包装して250枚

を一箱に収め、管区事務所から、それぞれ注文のあった教会に送られています。機械の温度調整や加熱時間、型抜きの際の加湿時間など扱いが難しく、今も試行錯誤の繰り返しです。

本年9月27日に、ナザレの家で矢萩司祭をはじめ管区事務所の方々とボランティアとの親睦会がありました。昼の祈り、昼食を挟んで、意見交換などの時を持ちました。このような場を与えてくださった管区の皆様に感謝いたします。

ウエハース作りの作業室は、ナザレ修女会のころから変わらぬ空間です。室の入り口に2つの額があります。一つ額には、「今の祈り 主よ我等に与え給いし此の仕事を主に捧げ奉る。願くは尊敬と注意を以て主の栄光のみのために果させ給え 御子イエスキリストによりて こいねがい奉る アメン」と記された祈りの書が収められています。もう一つの額には「沈黙」と書かれています。修女様たちや職員の方がずっと、この祈りと沈黙のうちに、ウエハースを焼き続けてきたお姿とその時を思わずにはられません。私たちも、心静かにこの働きを捧げていくつもりです。



東京教区 共育プログラム主催（ナザレ委員会共催）10月9日 ナザレの家

イエス様と歩く ～回廊を歩く黙想（コリドーウォーク）～ に参加して

北関東教区 立教学院聖パウロ礼拝堂 スサンナ 佐久間美智子

「コリドーウォーク」ときいて、私は修道院の回廊を競歩のように邪念を振り払いながら一生懸命に歩くことを想像しました。事前に丁寧な手引きをお送りいただいていたのにもかかわらず、思い込みでイメージを膨らませ、気合を入れてウォーキングシューズで行きました。実際は「イエスさまを感じながら、イエスさまと静かにゆっくり歩く」という黙想会への招きでした。

「黙想」は私にとって大変難しく、お祈りに集中しようとしても心がざわつき全然落ち着かない。しかも「ゆっくり歩く」の次元が想像以上で、逆にフラついてしまう程で、まずそこから集中出来ずにいましたが、ゆっくり一步一步、イエスさまに呼びかけながら歩いてみました。「歩く」と言われて競歩をイメージしてしまうような、普段とにかく一生懸命で空回りするほど精一杯な私に、イエスさまが「ゆっくり一步一步でいいんだよ。そんなに頑張らなくていいんだよ」と言ってくださっているように感じ、張り詰めているものが緩んで涙が出ました。「信仰の歩みは必死に頑張らないでいい、イエスさまと一緒に一歩ずつゆっくりでいい」とメッセージを受け取った気がしました。心が乱れてなかなか集中できない焦りの中でも、鳥の声、風の音、噴水の水音、芝生のおいを五感で感じながら、イエスさまの癒やしや優しさ、愛を心に染み込ませました。

今回、希望者には「霊的同伴」の機会がありました。カウンセリングのように1対1ではなく、霊的同伴ではそこにもう1人イエスさまがいて、アドバイスをいただくのではなく「参加者がお祈りしてどうだったかを同伴者が聴かせてもらう」とのことで、いただいたアドバイス通りにできなかったらどうしよう、という不安やプレッシャーなく、私も申し込みました。ぐちゃぐちゃな内面を抱えたまま入室すると、部屋には同伴者と参加者とイ

エスさま、3人分の椅子が用意されており、そばで聴いてくれているイエスさまをイメージしやすかったです。話すことでぐちゃぐちゃに絡まっているものを一つ一つ解いているようでした。普段、苦しすぎて悲しすぎて麻痺させていた気持ちが溢れてきました。問題は解決されず、まだ迷いの中で道が見えません。心の傷もまだ痛いけれど、寄り添って手当てしてもらった感じでした。良いサマリア人のたとえのように介抱してくれるイエスさまを感じました。今のありのままの魂の叫びを聴き、寄り添い、一緒に祈ってもらえることの温かさを感じるひとときでした。

食堂の扉に貼ってあった聖句「安らかに信頼していることにこそ力がある」（イザヤ書30章25節より）が心に響き、味わいました。安らかに信頼してイエスさまと歩みたい！

今、黙想の大切さを改めて感じています。「祈り」と「黙想」。自分でも情けなくなるほどの弱さや醜さを抱える私は、いつも、ごめんなさい、赦してください！どうか私を憐れんでください、と必死に祈り、こんな私でも愛してくださりがとう！と感謝しています。懺悔も感謝もお願いも「イエスさま、どうか聴いてください！」と、思いをぶつける祈りです。でも、黙想は神さまとの対話でした。悩みやグチ、抱えている悲しみや苦しさをイエスさまに『聴いてもらう』、そして『イエスさまに聴く』でした。この『聴く』が特に難しいけれど、これからは祈りに加えてもっと『聴き』たいと思いました。日常の中で静かに黙想するのは、今の私には至難の業ですが、またプログラムに参加して、導いていただきながら、焦らずに取り組んでいきたいです。

イエスさまと対話し、イエスさまに委ねて「安らかに信頼して」ゆっくり一步一步ずつ歩めますように。

英国聖公会 サラ・ムラリー主教

(Rt Revd and Rt Hon Dame Sarah Mullally DBE)

第 106 代カンタベリー大主教に任命される

聖オーガスティンが、597年にローマからケン
トに到着し、初代カンタベリー大主教として着座
して以来、サラ・ムラリー主教は初の女性のカン
タベリー大主教となります。

着座式は、2026年3月にカンタベリー大聖堂で
行なわれる予定です。

サラ・ムラリー主教は、英国教会エクセター教
区クレジットン主教を務めた後、2018年、ロンド
ン主教に按手されました。歴史的に初の女性の
ロンドン主教でもありました。2001年に聖職とし
て按手される前は、政府のイングランド看護局
長でしたが、37歳で同職に任命された史上最年
少の局長でした。専門はがん看護で、かつて、
サラ主教は看護について、「神の愛を映し出す機
会である」と表現しています。

カンタベリー大主教指名委員会である、Crown
Nominations Commission (CNC) は、今年2月
に開始した選考と祈りに満ちた見極めの過程を
経て、サラ主教を指名しました。CNCは17名で構
成されており、英国教会総会 (General Synod)
から選出された6名、アングリカン・コミュニ
オン (世界聖公会) 全体を代表する5名、カンタ
ベリー教区からの3名、さらにノリッジ教区主教
グレアム・アッシャー師、ヨーク大主教スティー
ヴン・コットレル師で、委員会の議長は元MI5長官
のウィアデールのエヴァンズ卿です。

英国教会における最高位主教であるカンタ
ベリー大主教の職務は、カンタベリー教区の教区
主教、イングランド全土の首座主教兼メトロポリ
タン主教、さらに約165カ国・8500万人の信徒を
擁するアングリカン・コミュニオン (世界聖公会)
を代表します。正確には、全世界の聖公会主
教の中で、「同位者中の首位者」(primus inter
 pares)としての役割を果たします。英国議会の
貴族院 (上院) においては、カンタベリー大主教
は、26名の聖公会主教からなる「聖職貴族院議
員」の一員でもあります。

今回の任命を受けて、サラ主教は次のように
述べました。

「この新たな職務へと招くキリストの召命に応
えるにあたり、私は十代の頃に信仰を持った当
初から私を駆り立ててきた、神と他者への奉仕
という思いをもって臨みます。看護職としての
キャリアとキリスト教奉仕職としての歩みのあら
ゆる場面において、私は、人々にも、神の優し
い導きにも、深く耳を傾けることを学びました。
人々が希望と癒しを見出すために、人々を一つ
に結び合わせることを求めてきました。

私は、ごく素朴に、教会が福音への確信を深
め続け、イエス・キリストに見いだす愛を語り、
その愛が私たちの行動を形作るように促したい
のです。

そして、この信仰の旅を、この国中の教会の交
わりと、そして世界中のアングリカン・コミュニ
オンの交わりの中で、神と地域社会に奉仕する何
百万人もの人々と分かち合うことを楽しみにして
います。

これは大きな責任であることを承知していま
すが、神がこれまでそうしてくださったように、私
を支えてくださるのだという平安と信頼をもって
この務めに臨みます」

カンタベリー大主教指名委員会 (CNC) 委員長
であるエヴァンズ卿は次のように述べています。

「英国教会および世界の聖公会 (アングリカン・
コミュニオン) を率いるカンタベリー大主教とし
て、神が誰を召されているのかを見極めるため
に、CNC委員長を務めたことは、大変光栄なこと
でした。その見極めは、この任命に対する希望
を語る何千人もの人々の声を聴く公開のコンサル
テーションから始まり、それは委員会の最終会
議まで続けました。このプロセスに参加してくだ
さったすべての方々、特にコンサルテーションで
時間を割いてご意見を共有してくださった方々、
そして数カ月にわたり、ランベス・パレスの任

命主事および任命・聖職チームの手を借りながら、熱心に働いてくださった委員会のメンバーの方々に感謝申し上げます。今後数カ月で新たな職務に就く準備を進めるサラ主教のために、私は祈りをささげます」

アングリカン・コミュニオン総主事のアンソニー・ポッグ主教は次のように述べました。

「サラ主教が次期カンタベリー大主教に指名されたことを歓迎し称賛するとともに、世界のアングリカン・コミュニオン諸教会に対し、彼女がこの重要な職務に就く準備を進める中で、祈りをささげてくださるよう呼びかけます。アングリカ

ン・コミュニオンの加盟教会に耳を傾け、相互支援を促し、一致を育む彼女の歩みに、神が智慧と識別力を授けてくださいますように。

アングリカン・コミュニオン・オフィス (ACO) は、彼女がアングリカン・コミュニオンの他の管区や諸機関と協力する上で、その働きを全面的に支えることを約束します。神がアングリカン・コミュニオンに聖霊を注ぎ、今日の世界においてキリストの変革をもたらす愛と福音の希望を大胆に分かち合うことができますように、共に祈りましょう」

(邦訳：主教 アシジのフランシス西原廉太)

サラ・ムラリー主教

(Rt Revd and Rt Hon Dame Sarah Mullally DBE) から
アングリカン・コミュニオン (世界の聖公会) へのメッセージ



写真提供：ランバス宮殿

親愛なるみなさま

アングリカン・コミュニオンについて想うと、私は喜びと希望でいっぱいです。神の普遍的な教会の活気に満ちた一部として、多様な文化や伝統にまたがる世界中の何百万人ものクリスチャンに奉仕しています。私は、アングリカン・コミュニオンの教会と、世界中のコミュニティにおける彼らの、忠実なクリスチャンの存在に感謝します。

管区間で共有される深い友情の絆を通じて、私は毎日、アングリカン・コミュニオンが宣教に

おいて互いに強化し合っていることを知っています。逆境の時に互いに並んで立ち、不正義や不平等の問題について声を上げてください。

なぜなら、私たちは皆、クリスチャンとして、一つの希望に召されているから、可能なためです。パウロによるエペソ人への手紙には次のように「私たちは皆、一つの希望に招かれ、一つの主、一つの信仰、一つのバプテスマ、すべての父なる神は唯一であり、すべての上におられ、すべてのことを貫き、すべてのものの内におられるのです。」と、示しています。

アングリカン・コミュニオンに対する私の祈りは、私たちが自信と確信を持って福音の希望に継続的に応えることです。今日の世界では、何百万人もの人々がさまざまな形の戦争、紛争、不正義、不平等の影響に苦しんでいます。世界的にも地域的にも、私たちを落胆させ、分断するものがたくさんあります。

しかし、この時代に、私たちは愛をもってお互いに耐え合い、恵みを与え、キリストの和解の力の証人として立つよう求められています。分断を埋め、思いやりを持って外に目を向け、弱い立場にある人々に寄り添い、境のない神の愛を模範とする共同体となりましょう。

ここの新たな職務へと招くキリストの召命に応えるにあたり、私は深く耳を傾け、忠実に奉仕

し、アングリカン・コミュニオンの団結と相互支援を促進することに全力で取り組んでいます。私は、世界中の仲間である首座主教・主教らと共に働き、各管区とその地域の会衆の豊かな多様性から学ぶことを楽しみにしています。また、2026年に開催される全聖公会中央協議会に参加できることを楽しみにしています。

あなたの教会がどこにあっても、どんな困難に直面しても、私の祈りとパートナーシップを確信してください。毎日のアングリカン・コミュニンの祈りのサイクル（代祷）を通して、祈りの中でお互いを支え続け、教会やコミュニティに神の導きと祝福を求めましょう。私たちが共に神の愛を分かち合い、この世界のキリスト教的社会正義のためにたゆまぬ努力をいたしましょう。

アングリカン・コミュニオン・オフィス総主事である
アンソニー・ポッグ主教から、
カンタベリーの次期大主教であるサラ・ムラリー主教へ
歓迎のメッセージ



写真提供：アングリカン・コミュニオン・オフィス

国王陛下が、大英帝国勲章デイムの称号を有するサラ・ムラリー主教の第106代カンタベリー大主教への任命を承認されたことを、心よりうれしく思います。

世界のアングリカン・コミュニオンの諸教会に

対し、この大主教としての重要な務めに備えるサラ主教のために祈りをささげよう呼びかけます。

ペトロの手紙一には、「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を用い

て互いに仕えなさい。」と書かれています。この言葉が、さまざまな状況において新大主教がアングリカン・コミュニオンの生活に仕える際の指針となるよう祈っています。

世界中で、深い友情と協力の絆を通じて、聖公会の教会は福音の希望を分かち合い、共通の善のために働いています。

しかし世界の多くの教会は、戦争、気候危機、貧困、不平等といった問題が深刻に地域社会に影響を及ぼす困難な状況の中で活動しています。

また一部の地域では、アングリカン・コミュニオンの絆に過度の負担がかかっています。教会間における意見の相違や不一致があり、神の癒やしを必要としています。

このようなあらゆる状況において、新大主教が加盟教会の声に耳を傾け、相互の助け合いを奨励し、一致を育むことができるよう、神が智慧と識別力をお与えくださいますように。

アングリカン・コミュニオン・オフィスは、公式事務局として、新大主教が加盟教会および聖公会のさまざまな会議（首座主教会議、全聖公会中央協議会、ランベス会議）と協力して任務を果たしてゆくにあたり、全面的に支援してまいります。

神がアングリカン・コミュニオンに聖霊を豊かに注ぎ、キリストの変革的な愛を勇敢に分かち合い、神の教会の完全で目に見える一致を、積極的に追求することができるよう、共に祈りましょう。

日本聖公会各教会の信徒・教役者のみなさま
＋主の平和がありますように

去る 10 月 3 日に、アングリカン・コミュニオン・オフィスよりお知らせがあり、第 106 代カンタベリー大主教に現・英国聖公会ロンドン教区主教のサラ・ムラリー主教が任命され、2026 年 3 月に就任される予定です。

日本聖公会主教会から、以下のようなメッセージをお送りしました。

就任に向けた準備とアングリカン・コミュニオンのこれからの歩みを覚えて各教会でもお祈りください。

◆サラ・ムラリー主教のカンタベリー大主教任命に際する首座主教メッセージ

英国聖公会ロンドン教区 主教 サラ・ムラリー 様
アングリカン・コミュニオン・オフィス 総主事 主教 アンソニー・ポッグ 様
＋主の平和

日本聖公会を代表し、サラ・ムラリー主教が次期カンタベリー大主教に任命されたことを心より歓迎申し上げます。日本聖公会において、この出来事は大きな喜びをもって受け止められています。相互理解と一致という困難な課題に挑む新たな職務にサラ主教が向き合う時、私たちは日本の地における宣教の営みをもって連帯します。

新たな任務に就かれるサラ主教の就任に至る日々を主が守り支えてくださいますように、また、ますますサラ主教の賜物が主に用いられ、必要な知恵と識別の力があたえられますように祈ります。

2025 年 10 月 7 日

日本聖公会 首座主教
ダビデ 上原 榮正

世界の聖公会の動向

☆ウェールズ聖公会が新大主教を選出

☆スコットランド聖公会とスコットランドのカトリック教会が関係を深める

☆コンゴ聖公会が建設中の大聖堂の崩壊に対する悲嘆を表明

管区事務所渉外主事 司祭 ポール・トルハースト

○ウェールズ聖公会が新大主教を選出

2025 年 7 月 30 日、新しいウェールズ聖公会の大主教が選出された。過去 5 年間モンマス教区の主教を務めてきたチェリー・ヴァン師が、第 15 代ウェールズ聖公会の大主教に選ばれた。

彼女は、ウェールズ教会の指導者として 3 年半務めた後 7 月に退任されたアンドリュー・ジョン主教の後任となり、英国初の女性の大主教、そしてウェールズ聖公会初の LGBTQ+ のリーダーとなる。

チェリー大主教は、選挙人団による 2 日目の会合で、3 分の 2 以上の多数決を得て選出された。この選出は他の教区主教によって承認され、セント・アサフのグレゴリー・キャメロン主教によって発表された。大主教として、彼女は引き続きモンマス教区の主教職も兼務する。

レスターシャー出身のチェリー大主教は、1989 年に執事に按手され、1994 年には英国聖公会で按手された最初の女性の司祭の一人となった。その後、マンチェスター教区ロッチデール首席司祭として 11 年間奉仕し、2020 年にモンマス教区の主教に按手された。

ニューポート首席司祭のイアン・ブラック師は、モンマス教区を代表してこのニュースを歓迎し、次のように述べた。「チェリー師は、ウェールズ聖公会の今この瞬間にふさわしい人物です。彼女は、(前大主教の突然の退任という) 公然とした混乱の後、信頼を回復するために必要な能力とビジョンを備えています。彼女はモンマス教区に安定をもたらし、聖職者と信徒への深い思

いやりを示し、宣教分野にもたらされる変化を明確かつ目的意識を持って管理してきました。この基盤は、彼女が今後数年間、管区を率いていく上で、確かな土台となるでしょう。」

「彼女は深い信仰を持ち、自らとは異なる見解を持つ人々にも開かれた心を持っており、それが深い感銘を与えています。私は、彼女を大聖堂の首席司祭としてこれから支えていくことを楽しみにしています。私たちの義務責務であり喜びの一つは、主教のために毎日祈ることです。これからも喜んでそうし続けます。」

○スコットランド聖公会とスコットランドのカトリック教会が関係を深める

将来さらに緊密に協力するという精神にもとづき、スコットランド聖公会とスコットランドのカトリック教会の間の歴史的な友好宣言が、先日エディンバラで調印された。

「聖ニニアン宣言」は、2 つの伝統的なキリスト教派間の関係を深めることを支持し、両者に横たわる違いを認めながらも、より大きな協力を可能にするものである。

➤ の宣言には、スコットランド聖公会のモレー、ロス&ケイネス教区の主教および首座主教であるマーク・ストレンジ大主教と、スコットランド・カトリック教会司教会議を代表してレオ・クシュリー大司教が署名した。

首座主教のマーク・ストレンジ師は次のように述べた。「私たちは、この地に初めて福音を伝えた聖人を思い起こしながら、聖ニニアンの祝日に

この宣言に署名します。」

「この行為を通じて、スコットランド聖公会とローマ・カトリック教会の私たちは、聖ニニアンが千年以上前に始めたのと同じ信仰の旅路を、友人として共に歩むことを約束します。」

「これは、私たちが共有するものに焦点を当て、キリストが私たち全員に対し、耳を傾け、学び、聖ニニアンの子孫として肩を並べてこの地に奉仕するよう呼びかけていることを信じる機会を与えてくれます。」

✓ オ・クシュリー大司教は次のように述べた。「この宣言は私たち自身のためだけではなく、私たちが奉仕するよう召されているスコットランドの人々のためのものです。友情を深めることによって、希望と和解を求めるこの世界において、私たちの共通の福音の証しが強められます。真の友情とは決して同質性を要求するものではなく、誠実さ、信頼、そして愛によって育まれるのです。」

「この宣言に署名するにあたり、私たちは皆さまにこう呼びかけます。キリストにあつて兄弟姉妹として共に歩もう。キリストにおける私たちの一致が、神のすべての人々への愛の証となりますように。この瞬間が、私たちが外の世界に目を向け、肩を並べ、友として、そして使命宣教のパートナーとして共に歩む勇気となりますように。」

ここ数年にわたり、スコットランド聖公会とカトリック教会は、聖公会とローマ・カトリックのより緊密な協力を促進することを目的とする「国際聖公会・ローマ・カトリック一致と宣教委員会 (IARCCUM)」の活動に積極的に関わってきた。今回の宣言は、両教会の伝統が、キリスト教の一致の証人となり得るよう、信仰に基づく相互関係を積極的に築こうとしていることを示す、さらなる証しとなるものである。

○コンゴ聖公会が建設中の大聖堂の崩壊に対する悲嘆を表明

2025 年 8 月 14 日木曜日の朝、ベニの聖ヨハネ大聖堂が倒壊した。コンゴ民主共和国ベニ市のベニ教区に位置するこの大聖堂は、まだ建設中であり、何の前兆もなく崩壊したと伝えられている。

幸いなことに、死者は出なかったが、大聖堂の被害は甚大で、希望の象徴であった大聖堂の喪失は教区と管区全体にとって大きな打撃となった。

✂ コンゴ聖公会のベニ教区の主教、シリル・カンバレ・タヴィリマ師は、「この教会を建設するプロジェクトは 2006 年頃に始まり、基礎工事が行なわれました。完成は 2007 年を予定していましたが、壁を高くする作業は 2017 年に始まったばかりでした。この地域の紛争と不安により建設は大幅に中断され、2019 年にはエボラ出血熱の流行、加えて世界的な新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、作業はさらに遅延しました。2025 年 2 月、ようやく大聖堂の屋根が完成したところでした」と述べた。

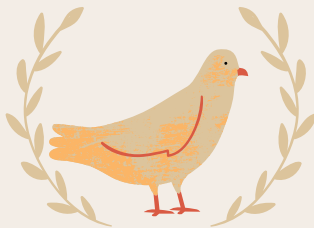
この聖堂の建設に至るまでの長い道のりの末に起きた災害の精神的衝撃について、シリル主教はさらに次のように述べた。「今年の長雨と強風が今回の災害の原因だと考えられています。私たちは皆、本当に心を痛めています。長い時間がかかったこの建設に投じられた努力と資源が、すべて無駄になってしまったのです。」

✓ シリル主教は、教区と信徒のために祈りを呼びかけた。「大聖堂の崩壊という悲劇により、私たちはこれから困難な時期を迎えることになります。聖公会の兄弟姉妹の皆さまの祈りが必要です。また、国全体、特にベニ地方の平和回復のためにもお祈りください」と述べた。

pray for peace

いのちをみつめる祈りの集い

キリスト者である私が 平和憲法にこだわる理由



この集いは、キリスト者がなぜ平和を祈り、行動するのかについて、教会につながるさまざまな方達からお話を伺い、共に語り合い、共に祈ろうというものです。

2025年、日本聖公会は「戦後80年～神と人々と世界の声に耳を傾け、平和をつくりだそう!」をテーマに、つながりをさらに広げようとしています。この集いが平和憲法について考える時となることを願います。

聖公会のみならず、教派を超えてキリスト者のみなさんの参加をお待ちしています。

第3回 **11月4日(火) 19:30~21:00** *19:15 Zoom開室

語り： **ガザ地区の現状と
国連パレスチナ難民救済事業機関の働き**
清田明宏 さん 国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) 医療局長

参加方法： 事前申込みは不要。
以下のURLよりZoomにお入りください。
<https://x.gd/yab3k>
ミーティングID 886 5801 2800
パスワード 222911



内容：

第1部 語り
第2部 質疑応答・わかちあい
第3部 祈り

自治政府の声が聞こえないのはなぜか？
日本人にできることは何か？
キリスト教会のネットワークでできることは何か？
ガザ地区の現状を伺い、一緒に考え、知恵を出し合いたいと思います。

主催・問合せ先：日本聖公会 正義と平和委員会 憲法プロジェクト
TEL：03-5228-3171

◆本の紹介

ポーラ・グッダー [著] / 中原康貴 [訳]

『意味は待つことにある』
アドベントのころThe Meaning is in the Waiting (YOBEL 新書)
～ The Spirit of Advent ～

著者: ポーラ・グッダー (Paula Goodr) は、
英国聖公会の聖書学者

1969 年生まれ。オックスフォード大学クイーンズ・カレッジ Ph.D。カデスドン・リボン神学校、バーミンガム・クイーンズ・エキュメニカル神学校他で教鞭を取り、英国聖書協会の常駐神学者等を歴任。現在はフリーランスの聖書学者として幅広く活動している。

訳者: 中原康貴氏は、日本聖公会の司祭

1974 年生まれ。英知大学、ウィリアムス神学院卒業。2004 年、日本聖公会の司祭に叙任される。現在、高知聖パウロ教会牧師。聖公会神学院非常勤講師、日本聖公会管区共通聖職試験委員ほか。(本書より)

アドベントにおいて未来を待つことは、過去を待つことと同じように、時間を崩壊させます。聖書の世界観に入ること、現在の苦しみや災いは栄光のうちに頂点に達する未来に焦点を当てることとなります。そして、過去のイエスの死と復活によって私たちに開かれた栄光の未来を、現在において少しでも実現させようと努力することへと私たちを招くことによって現在が変わるのです。(本書より)



❖ご要望にこたえて配本を早め、10月中旬配本!

聖公会手帳 2026

※写真はイメージです

★各教区事務所・教務所協力のもとに
★日本聖公会
管区事務所責任編集

2026年度教会暦
日課表を完全収録

前年に続き「折り」
のページを大幅
増補。宣教協議会
からの呼びかけも

全国の教会・伝道所、関係施設
情報網を網羅

大型判 (A5判) 2,200円 (税込)
ポケット判 1,200円 (税込)

お求めはバइブルハウス東京
☎ 03-3203-4137 HP: <https://www.biblehouse.jp/>
またはお近くの書店まで

日本聖公会管区事務所
2025年9月



日本聖公会 NIPPON SEI KO KAI



じんけんかつどう

人権活動

を支える主日

2025年 **11月30日**

< 降臨節第1主日 >

その時、あなたは見極められるようになる
正義と公正と公平が
幸いに至る唯一の道のりであることを。
(箴言 2:9)

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nskk.org 広報主事（鈴木 一）デスク宛て